



PANORAMA P1 / P4 / P6



日本語ユーザーガイド

www.hookup.co.jp

nektar

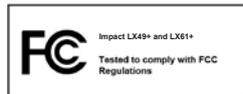
目次

イントロダクション	4
Panoramaの理念	4
同梱内容	4
システム条件	4
製品概要	5
Panorama P4 / P6	5
Panorama P1	7
さあ始めましょう	8
接続と電源	8
インターナルモード	9
概要	9
プリセット、マッピング、ボタン	9
グローバル設定	10
コントローラー設定	11
モーターフェーダー	12
ドラムパッド	13
DAWコントロール (REASON / CUBASE / LOGIC)	15
設定	15
概要	16
ミキサーモード	17
インストールメントモード	17
トランスポートモード	18
リモート設定の上書き	18
モーターフェーダー	19
ドラムパッド	19
ReWireコントロール	19
ファクトリーリセット	20
ABOUT画面	20
フェームウェアアップデート	20

本製品を安全にご利用頂く為、水分や食物、液体などから遠ざけ、製品の動作に影響を及ぼす要素の混入を防止に努めてください。機器の外装保護の観点でもそのような環境でご利用のは避けてください。また本ガイドで解説する範囲内の用途でご利用頂くよう、お願い申し上げます。

注意：本製品は、クラスBのデジタル機器としてのFCC規制のPart 15への適合検査をパスしています。この制限によって、本製品は住宅に設置する際に有害な干渉を防止する適切な保護を提供するように設計されています。本製品は、指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があり、電波エネルギーを放射する可能性があります。ただし、特定の設置条件で干渉が発生しないという保証はありません。本製品の利用によって、ラジオやテレビの受信に干渉を起こした場合、ユーザーは次のいずれかの方法で干渉を解消します：

- 受信アンテナの向きや位置を変えます。
- 装置と受信機の距離を離します。
- 受信機が接続されているものとは別回路のコンセントに機器を接続します。
- 販売店または経験のある電気または電波技術者に相談します。



CALIFORNIA PROP65 WARNING: 米カリフォルニア州で策定されています製品の表示義務に従い、本製品は人体に影響を及ぼす可能性がある化学物質が使用されています。ただしこれは微量で、無視できるレベルです。またご利用上、問題のない範囲内にあります。

詳しい情報は：www.nektartech.com/prop65

Impactのファームウェア、ソフトウェア及びマニュアル等の書類はNektar Technology, Incの財産であり、ライセンス同意によりユーザーに提供されます。日本語に関する情報は、株式会社フックアップの資産であり、Nektar Technology, Incの許可を受けて作成しています。

© 2016 Nektar Technology, Inc. / HookUp, Inc.
NektarはNektar Technology, Inc. の登録商標です。

製品に関するすべての記述及び仕様は予告なく変更することがあります。

クリーニングとメンテナンスについて

- 修理に関するすべての作業は弊社認定の専門技師によって行われます。
- 本製品の外装をクリーニングする際は、乾いた柔らかい布またはブラシをご利用ください。
- クリーニング用の化学物や研磨剤は外装に損害を与える可能性がありますので、利用はご遠慮ください。

修理に関する情報はこちらをご覧ください：<https://hookup.co.jp/support/>

イントロダクション

この度は、Nektar Panorama コントローラーをお求め頂き、誠に有難うございます。

Impact Panoramaシリーズのコントローラーにはご用途に合わせて、異なるモデル:49鍵盤のP4、61鍵盤のP6 と鍵盤の無いP1が用意されています。そして多くの主要DAWソフトウェアでご利用頂く為の設定ソフトウェアも付属します。このことで対応DAWの設定手順が簡略化され、これまででない高いレベルの操作を実現します。NektarのDAWサポートによって、Nektar Panoramaとコンピューターの組み合わせによって、明快な操作と機能アクセスが可能になります。Impact LX+をより効果的にご利用頂く為に、このガイドを一通りご覧頂くことをお勧めします。

またPanoramaシリーズのコントローラーはユーザーカスタマイズ可能で、ユーザー自身でオリジナルの設定・構成を行うことが出来ます。Panoramaで音楽制作や演奏をより一層お楽しみ、お役立て出来れば幸いです。

Panoramaの理念

Panoramaは強力な音楽ソフトウェアとコントローラーハードウェアのギャップを埋めることを目標として生まれたMIDIコントローラーです。DAWをはじめとする音楽ソフトウェアと深い融合によって、これまでの汎用コントローラーの常識を超え、これまででない機能と創造性をもたらします。

主要ソフトウェアに用意されたDAWインテグレーションはあたかも専用のハードウェアのように扱え、より効率よく、より深く、そしてより音楽に集中する為に、充実した装備がPanoramaに備わっています。優れたナビゲーションコントロールによって、マウスに触れる回数は劇的に少なくなり、美しいカラーディスプレイはコンピューター画面とコントローラーの視線移動を軽減します。そしてすべての操作は簡潔に実行出来るように、綿密に練られています。

充実したコントローラー類は伝統的なMIDIコントローラーとしても機能します。そして鍵盤モデルはプレミアムクラスのキーボードコントローラーで標準のゾーン機能も備えています。制作からライブ演奏まで、Panoramaはワークステーションハードウェアの利便さと操作性、そしてコンピューターならではのパワフルさを実現します。

さらにPanoramaには将来性も約束されています。USBを経由して機能を更新することが出来ます。最新のファームウェアとドライバーに更新することで、今後のシステム環境やソフトウェアのバージョンアップにも対応します。

同梱内容

Panoramaをお求め頂くと以下のアイテムが同梱されています:

- Panoramaコントローラー本体
- クイックガイド(英語)
- USBケーブル(コンピューター接続用)
- USBケーブル(マイクロB端子、電源供給用、キーボードモデルのみ)
- クリーニングクロス(キーボードモデルのみ)
- 日本語のご案内等の書類

システム条件

PanoramaはUSBクラスコンプライアントのMIDI機器として、Windows XP以降またはMac OS X環境で扱えます。DAWインテグレーションはWindows 7/8/10以降、Mac OS X 10.7以降の環境でインストールすることが出来ます。

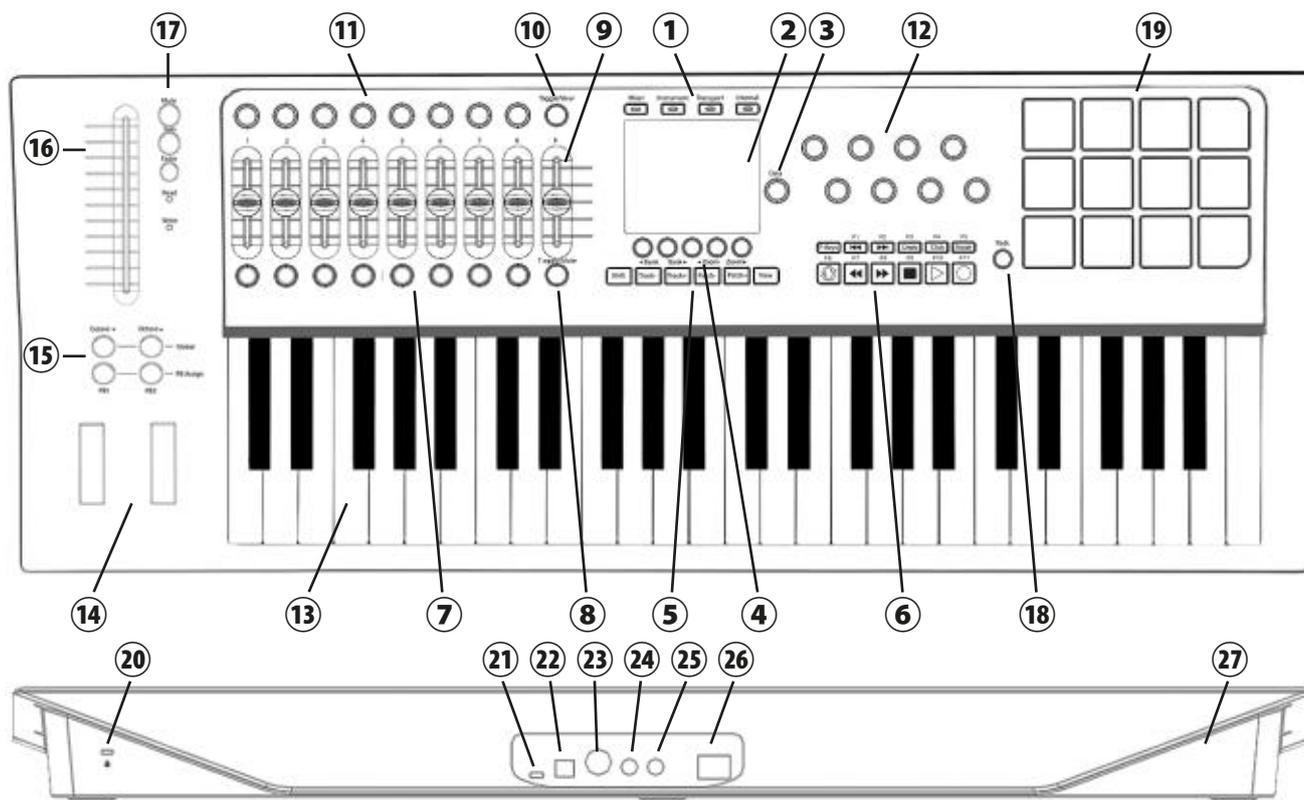
*システム条件内であってもすべての環境での動作を保証するものではありません。

*メーカーサポートが終了したシステム環境についてはサポート対応出来かねる場合があります。

*DAWインテグレーションは、ご利用のDAWソフトウェアのシステム条件も合わせてご確認お願い致します。

PANORAMAの概要 - P4/P6

Panorama P4/P6(キーボード)モデルの各部呼称とその概要です。この部分を飛ばさずにご確認頂くことをお勧めします。



トップパネル

- ① **モード切替ボタン**: Panoramaの操作モード: Mixer (ミキサー)、Instrument (インストゥルメント)、Transport (トランスポート)、Internal (インターナル)の切替に使用します。それぞれのボタンをもう一度押すことで、画面表示そのモードのホームとバックの切替えをします。DAWインテグレーションが機能しない場合、Internalモードのみ有効になり、他のモードボタンは機能しません。
- ② **ディスプレイ**: TFTカラーの液晶画面で、設定やコントローラーに関する情報、DAWインテグレーション時はソフトウェアと連動した情報を表示します。
- ③ **Data (データ) エンコーダー**: ディスプレイと連動したパラメーター、ナビゲーション操作をします。MIDIエンコーダーとして使用する場合があります。
- ④ **ディスプレイメニューボタン**: ディスプレイ下端の表示と連動した機能、メニューにアクセスする際に使用します。
- ⑤ **ナビゲーションボタン**: 6つのボタン: Shift (シフト)、Track/Bank (トラック/バンク)、Patch/Zoom (パッチ/ズーム)、View (ビュー)は主にDAWインテグレーション時のソフトウェア操作に使用します。DAWのトラックやソフトウェアの音色選択などに使用します。(MIDI設定の変更、ASCIIコマンドの設定可能)
- ⑥ **トランスポートとF-Keys (ファンクションキー) ボタン**: 11個のボタンはNektarインテグレーション時にDAWのトランスポート:再生、停止、録音などの操作に使用します。これらのボタンは、ShiftやF-Keysボタンとの併用で別の機能にアクセスします。(MIDI設定の変更、ASCIIコマンドの設定可能)
- ⑦ **LEDボタン**: 8つのボタンは主にその上のフェーダーと連動し、DAWのミキサーチャンネルの操作に使用します。(MIDI設定の変更、ASCIIコマンドの設定可能)
- ⑧ **Toggle/Mute (トグル/ミュート) ボタン**: インターナルモードではコントローラーのMIDI出力をミュート出来ます。他のモード、DAWインテグレーション時は左横すべてのLEDボタンの機能切替や特別な機能にアクセスします。
- ⑨ **フェーダー**: 9本の45mmフェーダーは主にDAWのミキサーチャンネル操作に使用します。(MIDI設定の変更可能)
- ⑩ **Toggle/View (トグル/ビュー) ボタン**: インターナルモードではコントローラーのMIDI設定の画面表示にアクセスします。他のモード、DAWインテグレーション時は左横すべてのエンコーダーの機能切替や特別な機能にアクセスします。
- ⑪ **エンコーダー**: 8つのエンコーダーは主にその下のフェーダーと連動し、DAWのミキサーチャンネルの操作に使用します。(MIDI設定の変更可能)
- ⑫ **エンコーダー**: 二段に並んだ8つのエンコーダーは主にDAW上のプラグイン操作に使用します。(MIDI設定の変更可能)
- ⑬ **鍵盤**: ペロシティ、モノアフタータッチ対応のキーボードです。P4 = 49鍵、P6 = 61鍵
- ⑭ **ピッチバンドとモジュレーションホイール**: 左側はピッチバンド、右側のホイールは主にモジュレーション操作に使用します。(MIDI設定の変更可能)
- ⑮ **Octave (オクターブシフト)とPB (パフォーマンス) ボタン**: 鍵盤の音域範囲のオクターブ変更と演奏時の操作に使用します。2つのオクターブボタン(▼と▲)の同時押しでグローバル(Global)メニューにアクセスし、2つのPBボタン(1と2)の同時押しで、その機能の選択(PB Assgin)をします。
- ⑯ **モーターフェーダー**: タッチセンス対応、100mmのALPS製フェーダーです。Nektarインテグレーション対応のDAWと連動し、チャンネルフェーダーを操作します。
- ⑰ **Solo (ソロ)とMute (ミュート)、Fader (フェーダー) セレクトボタン**: モーターフェーダーと同じDAWのチャンネルの操作をします。ソロとミュートボタンはMIDI設定の変更が可能で、フェーダーボタンはディスプレイにフェーダーメニューを表示します。Read (リード)とWrite (ライト) LEDはフェーダーモードの状態をあらわします。

- ⑱ **Pads (パッド) ボタン**: モードに関わらず、パッドに関するメニューにアクセスします。
- ⑲ **ドラムパッド**: 12のペロシティ、圧感式のドラムパッドで、ドラム音源の演奏以外に、MIDIボタン/スイッチとしても機能します。(MIDI設定の変更、ASCIIコマンドの設定可能)

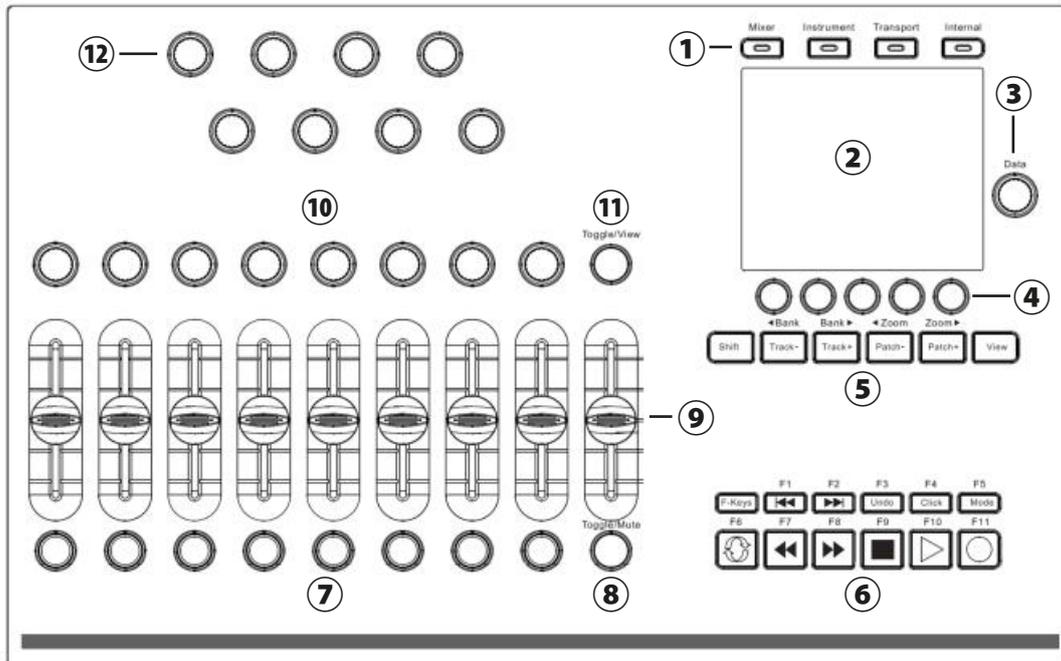
リアパネル

- ⑳ **Kensington (ケンジントン) ロック**: 市販のKensingtonロックに対応したポートです。盗難防止に使用します。
- ㉑ **USB Aux Power (追加電源) 端子**: モーターフェーダーに電源供給する為のマイクロB仕様のUSBポートです。市販のUSB電源アダプターや別系統の電源を供給するUSBポートと接続します。このポートはコンピューターとのデータ転送は行いません。小型のUSB端子にはいくつかの形状が存在します。市販のケーブルを用いる際は、その形状が正しいかどうか、よくご確認ください。
- ㉒ **USB端子**: コンピューターと接続する為の標準サイズのUSB端子です。このポートでコンピューターとのデータ転送とコンピューターからの電源供給を受けます。
- ㉓ **MIDI OUT (出力) 端子**: 標準のDIN-5規格のMIDI出力端子です。外部のデバイスにMIDI情報を送信する為に使用します。
- ㉔ **Foot Switch (フットスイッチ) 端子**: 別売のフットスイッチを接続する為の標準サイズ(1/4")の端子です。Panoramaの電源投入時に極性を自動検知します。通常はサスティペダルのMIDI情報を扱います。(MIDI設定の変更可能)
- ㉕ **Expression Pedal (エクスプレッションペダル) 端子**: 市販のエクスプレッションペダルを接続する為の標準サイズ(1/4")の端子です。
- ㉖ **Power On/Off (電源) スイッチ**: Panorama本体の電源のオン・オフをします。
- ㉗ **エアロダイナミックデザイン**: 目を引くデザインだけではなく、丈夫かつ扱いやすく、外部ショックを和らげるように設計されています。

*ASCIIマクロは、コンピューターキーボードのショートカットコマンドのことです。一般的によく使用されるのはアンドゥ(取り消し)で、Windows環境ではCtrl + Zキーで、Mac OS X環境ではcommand + Zキーです。Panoramaではこの操作をボタンに設定することが出来ます。(この機能はシステムの仕様上、Mac OS X 10.11以降ではご利用いただくことができません。)

PANORAMAの概要 - P1

Panorama P1 (キーボードレス) モデルの各部呼称とその概要です。この部分を飛ばさずにご確認頂くことをお勧めします。



- ① **モード切替ボタン**: Panoramaの操作モード: Mixer (ミキサー)、Instrument (インストゥルメント)、Transport (トランスポート)、Internal (インターナル)の切替に使用します。それぞれのボタンをもう一度押すことで、画面表示そのモードのホームとバックの切替えをします。DAWインテグレーションが機能しない場合、Internalモードのみ有効になり、他のモードボタンは機能しません。
- ② **ディスプレイ**: TFTカラーの液晶画面で、設定やコントローラーに関する情報、DAWインテグレーション時はソフトウェアと連動した情報を表示します。
- ③ **Data (データ) エンコーダー**: ディスプレイと連動したパラメーター、ナビゲーション操作をします。MIDIエンコーダーとして使用する場合があります。
- ④ **ディスプレイメニューボタン**: ディスプレイ下端の表示と連動した機能、メニューにアクセスする際に使用します。
- ⑤ **ナビゲーションボタン**: 6つのボタン: Shift (シフト)、Track/Bank (トラック/バンク)、Patch/Zoom (パッチ/ズーム)、View (ビュー) は主にDAWインテグレーション時のソフトウェア操作に使用します。DAWのトラックやソフトウェアの音色選択などに使用します。(MIDI設定の変更、ASCIIコマンドの設定可能)
- ⑥ **トランスポートとF-Keys (ファンクションキー) ボタン**: 11個のボタンはNektarインテグレーション時にDAWのトランスポート: 再生、停止、録音などの操作に使用します。これらのボタンは、ShiftやF-Keysボタンとの併用で別の機能にアクセスします。(MIDI設定の変更、ASCIIコマンドの設定可能)
- ⑦ **LEDボタン**: 8つのボタンは主にその上のフェーダーと連動し、DAWのミキサーチャンネルの操作に使用します。(MIDI設定の変更、ASCIIコマンドの設定可能)
- ⑧ **Toggle/Mute (トグル/ミュート) ボタン**: インターナルモードではコントローラーのMIDI出力をミュート出来ます。他のモード、DAWインテグレーション時は左横すべてのLEDボタンの機能切替や特別な機能にアクセスします。
- ⑨ **フェーダー**: 9本の45mmフェーダーは主にDAWのミキサーチャンネル操作に使用します。(MIDI設定の変更可能)
- ⑩ **Toggle/View (トグル/ビュー) ボタン**: インターナルモードではコントローラーのMIDI設定の画面表示にアクセスします。他のモード、DAWインテグレーション時は左横すべてのエンコーダーの機能切替や特別な機能にアクセスします。
- ⑪ **エンコーダー**: 8つのエンコーダーは主にその下のフェーダーと連動し、DAWのミキサーチャンネルの操作に使用します。(MIDI設定の変更可能)
- ⑫ **エンコーダー**: 二段に並んだ8つのエンコーダーは主にDAW上のプラグイン操作に使用します。(MIDI設定の変更可能)

さあ、始めましょう

接続と電源

PanoramaはUSBクラスコンプライアントに準拠したMIDI機器ですが、その有り余る機能すべてを利用する為に、環境によっては特別に用意されたドライバーソフトウェアのインストールが必要です。ただし、幾つかのシステム環境環境下や汎用のMIDIコントローラーとして使用する場合、WindowsやOS X標準のドライバーで動作し、コンピューターに接続するだけで認識され、使用することが出来ます。この場合ドライバーのインストールは不要です。

Panoramaの基礎的な動作に必要な電源はコンピューターのUSBポートから供給されます。キーボードモデルに装備されたモーターフェーダーを使用する場合、追加電源用のUSBポートも使用します。

接続方法と手順はとても簡単です：

- ・ システム環境に応じたドライバーソフトウェアのインストールをします。
- ・ キーボードモデルでモーターフェーダー⑩を使用する場合、付属のマイクロB仕様のUSBケーブルを使用して市販のUSB電源アダプター、あるいは別系統のUSBポート⑪に接続します。
- ・ サスティンペダルを使用する場合、Panoramaのフットスイッチ端子⑫に接続します。
- ・ エクスプレッションペダルを使用する場合、Panoramaのエクスペッションペダル端子⑬に接続します。
- ・ 付属のUSBケーブルを使用して、PanoramaのUSBポート⑭とコンピューターを接続します。
- ・ 電源スイッチ⑮をオンにします。(Panorama P1には電源スイッチがないので、USBケーブルを接続するだけです。

初めてコンピューターに接続した場合、Panoramaの認識に少し時間を要します。認識されましたら、DAWの為の設定をします。

Panoramaのモーターフェーダー⑩が有効な場合、電源を投入すると自動で数回上下に動作します。これはフェーダーを正しく動作させる為のキャリブレーション機能で、以上動作ではありません。

Nektar DAWインテグレーション

ご利用のDAWソフトウェアがNektar DAWインテグレーションに対応している場合、専用の設定ソフトウェアをご用意していますので、ダウンロードの上インストールをします。このことで、シンプルな設定で高度なDAWコントロールを実現します。

最新版のサポートファイルをいち早く入手するにはNektar社のウェブサイトに登録が必要です(英語でのサービス提供になります)：

www.nektartech.com/registration

重要なお知らせ：設定に関する情報はウェブページやPDFファイルとして公開しています。インストールと設定をする際はご確認頂くようお願い申し上げます。

Panoramaを汎用のMIDIコントローラーとして利用する場合

Panoramaは汎用のMIDIコントローラー・キーボードとして、OSX、Windows環境でご利用頂けます。いくつかのソフトウェアでは追加ファイルをインストールすることで連動することが出来ます。

インターナルモード - 概要

Panoramaには4つのモードが用意されDAWソフトウェアのミキサーやプラグイン、シーケンス操作に合わせて切替えて使用します。モードの切替えはディスプレイ②上の切替ボタン①を使用します。Mixer、Instrument、TransportモードはDAWインテグレーション対応のソフトウェアと連動する際のみ使用出来ます。Internalモードは汎用コントローラー、あるいはDAWインテグレーション時に自由に割当て可能なコントローラーモードとして使用します。

DAWインテグレーションに関する設定は、13ページ以降に記載しています。ここではInternalモードについて解説をします。

InternalモードはPanoramaを汎用コントローラーとして利用する際のデフォルトモードになります。Internalボタンが点灯している場合、ディスプレイ②は以下のように表示します：



フェーダー⑨やエンコーダー⑩などを動かすと、画面上のフェーダーやノブも連動します。これらのコントローラーは一般的なMIDIコントローラー情報（コンティニュアスコントローラーやコントロールチェンジと言い、通常MIDI CCと表記）を送信します。Toggle/Viewボタン⑩を押すことで、これらのコントローラーで設定をしているMIDI CCに関する情報が表示されます。Toggle/Muteボタン⑧を押した場合、MIDI信号の送信をミュートします。これはソフトウェアのパラメーターを変更せずにフェーダーポジションを整える際に便利です。ミュート解除は再度Toggle/Muteボタンを押します。

ディスプレイ下のボタン④は画面下端のタブメニューと連動し、そこに表示されたメニューや機能にアクセスする際に使用します。例えば上の画面例の場合、Fader表示が選択されていますので、この部分が赤色に表示され、フェーダーに関する情報をあらわします。その隣のEncodersタブ下のボタンを押すとエンコーダー⑫に関する情報、Zones下のボタンを押すとキーボードのゾーン設定にアクセスします。Loadの箇所はマッピング（割当）設定の選択、最後のSetupは本体に関する設定メニューにアクセスします。

注意：画面表示はPanoramaのファームウェアバージョンやモデルによって異なります。

キーボードモデルのPanoramaでは追加のディスプレイメニューが存在します。モーターフェーダー⑯横のFaderボタン⑰を押すことで、モーターフェーダーと関連した情報、Padsボタン⑱でドラムパッドに関連した情報にアクセスします。

キーボードモデルの鍵盤⑬の左横にはOctaveとPBボタン⑮、ピッチベンド、モジュレーションホイール⑭が用意されています。

- ・ 左側のOctave ▼ボタンを押すことでキーボードの音域を1オクターブ下げます。
- ・ 右側のOctave ▲ボタンを押すことでキーボードの音域を1オクターブ上げます。
- ・ ボタン操作を繰り返すことで、そのボタン機能に応じて音域をさらに上下させることが出来ます。

ボタン操作による範囲はPanoramaのモデルによって異なります。49鍵モデル（P4）では、最大で3オクターブ下、4オクターブ上にシフトすることが出来ます。61鍵モデル（P6）は、上下3オクターブにシフトすることが可能です。いずれのモデルもMIDI規格のノートの範囲（127ノート）をすべて網羅します。オクターブの変更は2つのOctaveボタンを同時に押し、Globalメニュー上でも設定出来ます。その際の設定はDataエンコーダー③を使用します。またキーボードのトランスポーズ（Transpose）もGlobalメニューで行います。

2つのPBボタンは、演奏時のエフェクト効果のオン・オフ、特定の音色変化などに便利です。2つのボタンを同時押すことで、設定メニュー：PB Assignにアクセスします。

メモ：PanoramaのInternalモードでは、様々なソフトウェアを快適に利用する為に、コントローラーの割当て設定をプリセットとして保存しています。Panoramaの本体には最大で20のプリセットが用意されていて、いつでも呼び出すことが出来ます。プリセットの上の設定は、お好みに応じて変更し、保存することが可能です。また、プリセットとは別に鍵盤、パッド、F-Keysそれぞれ個別の割当て設定が可能で、このことをマッピング（Map）と呼びます。マッピング機能を活用することで、作業や演奏時に全体の構成を維持したまま、必要な部分の設定を変えることが出来、便利です。

インターナルモード - グローバル(Global) 設定

ここでは一般的によく使用される設定について解説します。特にMIDIとコントローラーに慣れ親しんだ方にとって有用な情報になります。

キーボードペロシティカーブ (Keyboard Curve)

2つのOctaveボタン⑮を同時に押すことでGlobalメニューにアクセスします。初期段階ではこのメニューではトランスポーズ (Transpose) をします。鍵盤のペロシティカーブを変更するには以下の手順を行います：

- 画面上のカーソル表示と連動したボタン④を押して、Keyboard Curve (キーボードカーブ) に照準を合わせます。
- Dataエンコーダー③で目的のカーブに設定します。

Panoramaには5つのペロシティカーブ：Soft2、Soft1、Standard、Hard1、Hard2が用意されています。工場出荷時の設定はStandardです。Soft方が強いタッチを必要とし、Hardの方が柔らかいタッチでも高いペロシティ値が得られやすくなっています。お好みに合わせて設定をします。

メモ：キーボードモデルのみの設定です。

エンコーダーカーブ (Ecorder Curve)

Panoramaのコントロールノブはすべて360度回転するエンコーダー式のものを採用しています。このノブの特徴はノブを操作した際の速度に応じた値変化の大きさでパラメーターコントロール出来ることです。しかしながら、通常の限界があるノブ操作に慣れ親しんでいる場合、違和感を感じる場合があります。エンコーダーカーブはその違和感を解消する為の設定です。設定方法は以下の通りです：

- Ecorder Curveメニューに照準を合わせます。
- Dataエンコーダー③で、エンコーダーカーブの設定をします。

標準のStandard設定では、1周の操作で、0-127の値を網羅します。Slowに設定した場合、最大または最小値に達するまで、1周以上の操作が必要です。

MIDIポート設定 (MIDI Jack Source)

Srcと標示された箇所は、MIDI出力⑳の情報源 (ソース) を設定します。Internalに設定した場合、Panorama本体のMIDI情報が出力されます。USBに設定した場合、MIDIインターフェイスとして機能し、コンピューターからのMIDI情報を出力します。

グローバルMIDIチャンネル、プログラムとバンクチェンジ (Global Channel, Program, Bank LSB/MSB)

Panorama全体のMIDIチャンネル設定は、Global MIDI Channelで行います。この設定は、チャンネルがGlobalに設定されたすべてのコントローラーの設定に影響します。

MIDIプログラムチェンジ (Program) およびバンクチェンジ (Bank LSBとBank MSB) を送信する場合、これらの箇所にも照準を合わせ、Dataエンコーダー③で設定をします。これらの値は、グローバルMIDIチャンネルを使用します。

LCDカラー (LCD Color)

Panoramaのカラーディスプレイの明るさ (Brightness) を調節します。

ペダル/モジュレーションホイールのディスプレイ表示 (Display Pedal/Mod)

エクスプレッションペダルやモジュレーションホイールを操作した際の値をディスプレイのインフォライン (Info Line) に表示するかどうかを設定します。通常この表示はオフ (Off) に設定されています。

すべての設定を完了したら、ディスプレイ上のリターンアイコン下のディスプレイボタン④ (右端)、またはInternalモードボタン①を押して、Globalメニューを解除します。

インターナルモード - コントローラー設定

コントロールエディット (Ctrl Edit)



画面上のCtrl EditまたはSetupメニュー④からコントローラーの設定 (Control Edit) 画面を表示することで、各コントローラーの設定変更が行えます。設定方法は以下の通りです：

- ・ 変更対象のコントローラー：フェーダー⑨、エンコーダー⑪/⑫、ボタン⑤/⑥/⑦/⑰、パッド⑱を操作します。
- ・ 左側2つのディスプレイボタン④で、変更パラメーターに照準を合わせます。
- ・ Dataエンコーダー③で設定をします。

設定は変更後、即座に適用されますので、実際にコントローラーを操作して確認をすることが出来ます。

メモ：画面表示と設定項目は選択されたコントローラーによって異なります。

注意：ボタン類はコンピューターのキーボード情報：QWERY/ASCIIを設定することが可能です。ただし、この機能はPanoramaの専用ドライバーをインストールした際のみ機能します。専用ドライバーをインストール出来ない一部のシステム環境では機能しません。

ゾーン設定 (Zone)

Panoramaのキーボードモデルは、鍵盤のゾーン (Zone) 設定が可能です。ゾーンはキーボード範囲を分割して、個別の音色を演奏する際に使用します。あるいはキースイッチでアーティキュレーションの変更を必要とする音源を演奏する際、特定範囲の鍵盤をキースイッチ操作に固定しておく際に便利です。Panoramaでは最大で4つのゾーンに分割可能で、それぞれのゾーンでピッチベンド、モジュレーションホイール、アフタータッチやペダル類の使用を設定することが出来ます。また、ゾーン設定はPanoramaの5つのキーボードマッピングに保存することが可能です。

ゾーンを操作するには、Internalモード①にしてディスプレイメニューのZonesボタン④を押します。あるいは2つのPBボタン⑮を同時に押すことでもGlobalメニューからアクセス可能です。Zones画面が表示されると、ディスプレイメニューボタン④でそれぞれのゾーンのオン・オフが可能です。すべてのゾーンをオフにした場合、Panoramaのキーボードは通常モードになり、グローバルMIDIチャンネルとオクターブ/トランスポーズ設定に従った範囲のMIDIノートの演奏に使用します。Zones画面は以下のようにゾーンの範囲、オクターブ、トランスポーズそしてMIDIチャンネル設定を表示します：



以下のゾーン設定の操作手順です：

- ・ 4つのZoneボタン④のいずれをインフォラインがZONEx RANGE LOW: (PRESS KEY)と表示されるまで、押したままにします。
- ・ ゾーン範囲の下端のノート (Lo) を設定する為の鍵盤を押し、ノートを入力します。
- ・ 次にインフォラインがZONEx RANGE HIGH (PRESS KEY)と表示されゾーン範囲の上端のノート (Hi) を設定する為、再度鍵盤を押し、ノートを入力します。
- ・ ノート入力時にOctaveボタン⑮を使用することが可能です。
- ・ ゾーンのオクターブやMIDIチャンネルに関する設定はSetupメニューのZone Editで行います。
- ・ ゾーン設定を解除するには、Internalモードボタン①を押します。

インターナルモード - モーターフェーダー

Panoramaのキーボードモデルに装備されたモーターフェーダー⑯は、Nektarから供給された特別な通信手段(プロトコルと言います)を使用してDAWソフトウェアのチャンネルストリップを操作します。モーターフェーダー自体、NektarのDAWインテグレーションを使用しない限り、機能することはありません。ただし、Internalモードではその隣のMuteとSoloボタン⑰と共にMIDI情報を設定して、コントローラーとして使用出来ます。

モーター機能の条件

Panoramaのモーターフェーダーは以下の条件で機能します。

- Panoramaとソフトウェア間でパラメーター値が双方向で伝達する特別なプロトコルを用います。
- Panoramaの追加電源ポート⑱から適切な電源が供給されている必要があります。

これらの条件を満たしていない場合でもモーターフェーダーは、通常のMIDIコントローラーとして機能します。

フェーダー (Fader) メニュー

モーターフェーダー横のFaderボタン⑰を押すことでディスプレイにフェーダーメニューを表示します。InternalモードにおいてこのメニューはジェネラルMIDIレベル2 (GM2) 規格に準拠したチャンネルストリップとして機能します。

デフォルト状態では以下の通りに設定されます：

- フェーダー：Volume = MIDI CC# 7
- Pan = MIDI CC# 10
- Send 1 = MIDI CC #91 (Reverb)
- Send 2 = MIDI CC #93 (Chorus)
- Muteボタン = MIDI CC# 12
- Soloボタン = MIDI CC# 13

Panと2つのSendコントロールはディスプレイメニューの左端2つのカーソルボタン④で照準を合わせて、Dataエンコーダー③で設定をします。

チャンネル表示下の2つのカーソルボタン④で対象のMIDIチャンネルを変更します。

右端のディスプレイメニューボタン④またはInternalモードボタン①で、Faderメニューから通常のメニューに戻ります。

MuteとSoloボタン⑰は、GM2規格ではありませんので、ソフトウェアに合わせて設定を変更出来ます。

コントローラーのMIDI設定の変更は、Setupメニュー > Control Editで行います。

インターナルモード - ドラムパッド

キーボードモデルのPanoramaに装備された12のドラムパッドは強力なパーカッションコントローラーです。関連メニューの設定で、用途や音源に適したモードで演奏や操作に使用出来ます。パッドのMIDI情報設定は、Nektarの提供するDAWインテグレーションのファイルで自動的にソフトウェアと関連付けられます。また、Nektarの洗練されたラーン(Learn)機能と直観的なメニューで素早くカスタマイズすることも可能です。

Panoramaのドラムパッドにはパーカッシブなメロディ演奏に適した機能が備えられています。Scale(スケール)、Octave(オクターブ)、Transpose(トランスポーズ)は即座にアクセスして使用することが出来ます。

また、Panoramaは20のパッドマッピングを保持し、パッドの設定を保存または呼出して使うことが出来ます。

ベロシティカーブ

パッドのベロシティカーブを変更することが可能です。ベロシティカーブ、あるいは固定ベロシティ設定の変更手順は以下の通りです：

- Padsボタン^⑩を押します。
- Dataエンコーダー^③で設定をします。

ベロシティカーブはディスプレイのインフォバーの右端に表示されます。選択肢はSoft、Standard、Hard、2-Level(2段階)、3-Level(3段階)、4-Level(4段階)とFixed(固定)で、初期設定はStandardです。設定はすべてのパッドに適用します。



パッドラーン(Pad Learn)機能

パッドラーン機能はパッドのノート設定を簡潔に行う為の機能です。これで簡単に音源のパッドに対応出来ます。操作手順は次の通りです：

1. Padsボタン^⑩を押します。
2. Pad Mapと表示された左端のディスプレイボタン^④を押します。
3. 更に左端のディスプレイボタン^④(↓ Learnと表示)を押します。
4. 希望のパッドを押し、赤色に表示した状態で鍵盤を押してパッドにノートを設定をします。
5. 手順3と4を繰り返して、目的のパッドすべての設定を完了します。
6. 設定モードを解除します。解除するには左端のディスプレイボタン^④(↓ Learnと表示)を再度押します。

メモ：ラーンモード時、パッドの圧感機能は自動でオフになります。

スケール(Scale)機能

Scaleメニューは音程のある打楽器やメロディーを演奏する際に使用します。このメニューでは様々なスケール(音階)を選ぶことが可能で、鍵盤演奏が不得意な方でも効果的なメロディ演奏をサポートします。次の手順でScaleメニューにアクセスします：

- Padsボタン^⑩を押します。
- Scaleと表示されたディスプレイボタン^④を押します。
- Dataエンコーダー^③でスケールを選びます。

スケールはディスプレイのインフォバーの中央に表示されます。デフォルト設定はChromatic(クロマチック)です。

選択されたスケールで即座に演奏が可能で、目的に適したスケールを確認しながら選ぶことが出来ます。

Scaleメニューでは以下の手順でスケールのルートキーを設定することが可能です：

- Root Learnと表示された左端ディスプレイボタン^④を押します。
- ルートとなるノートを鍵盤で入力します。

オクターブとトランスポーズの変更は、ディスプレイメニューボタン^④: Octave +/-またはTransposeを押して、Dataエンコーダー^③で設定します。

ベロシティスプレッド (Velocity Spread) 機能

この機能は12のパッドを使用して、1つのノートをベロシティ別に演奏をする特別なモードです。パッドコントローラーを備えた伝統的な作曲用のハードウェアに装備されたのと同じ機能で、正確な強弱をシーケンスに記録する際に便利です。以下の操作で、Velocity Spreadモードに入ることができます：

- Padsボタン⑩を押します。
- パッドを押して、選択をします。
- Vel-Spreadと表示されたディスプレイボタン④を押します。



これで、選択したパッドのノートが画面に表示されたベロシティの通りに12のパッドに振分けられ、演奏をすることが出来ます。Velocity Spreadモードではさらにパッドを選択して、Dataエンコーダー③で即座にベロシティ値を変えることが可能です。

Velocity Spreadモードは、Padsメニューのホーム画面以外に、Pad-Map (パッドマッピング)、Scale (スケール) メニューでもディスプレイメニューに表示され、アクセスすることが出来ます。

パッドの設定変更

PanoramaのパッドはMIDIノート以外にMIDIやASCIIコマンド、あるいは圧感機能を用いたMIDI CCの操作が可能です。この設定方法の概要は11ページのコントロールエディットの項目に記載しています。

DAWコントロール - 設定

ここではPropellerheads Reason、Steinberg Cubase、Apple LogicなどのDAWインテグレーションでの設定と操作の概要について解説をします。各DAWに関する詳しい設定は、弊社ウェブサイトにてご確認くださいよう、お願い申し上げます。
<https://hookup.co.jp/support/>

Panoramaのドライバー

Panoramaの専用ドライバーは、特定のDAWと連動させる際に使用します。主にCubase、Logic、Reasonなど、NektarのDAWインテグレーションに対応しているソフトウェアで必要になります。

必要かどうかご不明の場合、まずインテグレーションファイルをインストールして動作を確認されることをお勧めします。

インテグレーションファイル、ドライバーのダウンロードと対応システムは弊社ウェブサイトにて公開しています。

DAWインテグレーションファイル

DAWインテグレーションはPanoramaとDAWを連動させる為の設定ファイルで、対応するDAW別に用意しています。これらのファイルをインストールすることで、DAWとPanoramaでの設定手順を大幅に減らし、簡潔かつ適切に完了させることが出来ます。

以下、設定概要と注意点です：

- DAWソフトウェアを起動したことがない場合、インテグレーションファイルをインストールする前に一度起動をして終了します。理由：ソフトウェアによってはインストール後の初回起動に必要なファイルをインストールしたり、設定をしたりする必要がある為です。
- インテグレーションファイルをダウンロードし、展開したフォルダーの中から“Panorama_XXX_Support”を起動し、画面に従ってインストールをします。(XXXは、DAWまたはDAWメーカー名、例：Subaseの場合、インテグレーションファイルは“Panorama_Steinberg_Support”です。)
- インストールを完了したら、Panoramaをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- DAWを起動し、ポートやデバイスの設定します。DAWによっては自動設定されますので、確認をするだけです。

上手くいかない場合は、一度Panoramaに関するファイルを削除の上、再度設定をします。

ご利用の環境によってはPanoramaのファームウェアを更新する必要があります。手順についてはウェブサイトまたは20ページのファームウェアアップデートの項目に記載しています。

PanoramaのUSBポートは1つですが、コンピューターから見た場合、4つのポートを持つデバイスとして認識されます。

ポート	OSX上の表示	Windows上の表示
1	PANORAMA Panorama	PANORAMA
2	PANORAMA Instrument	MIDIIN2 とMIDOUT2
3	PANORAMA Mixer	MIDIIN3 とMIDOUT3
4	PANORAMA Px ReWire Host	MIDIIN4 とMIDOUT4

システム環境によっては表示が異なります。

各DAWの注意点：

- LOGIC: Logicを起動する前にPanoramaを接続し、電源を投入します。作業を終了際はLogicを終了してからPanoramaの接続を解除してください。理由：これを怠るとLogicがPanoramaを二重認識(2つのPanoramaがコントロールサーフェス設定が作成)されます。
- REASON: 設定後、ReasonミキサーとPanoramaのミキサーモードのデバイスロックを設定します。理由：Reasonのデバイスロック機能はソングファイル毎に設定をする為です。毎回設定をし直す手間をテンプレートにして保存することをお勧めします。
- CUBASE: Panoramaのポート1とポート4以外は無効にし、ポート1のみ「ALL MIDI IN」を有効にします。Cubaseの設定項目は“X”に設定した場合がオンです。

DAWコントロール

概要 - DAWインテグレーション

DAWインテグレーションは、対応DAWとPanoramaが様々な角度で連動をします。この項目ではPanoramaのMixer、Instrument、Transportモードの役割と機能、操作の概要について解説でします。

モードとナビゲーション

Panoramaのモード切替ボタン①で、DAWソフトウェアの各部と連動した操作が行えます。以下各モードの概要です：



モード	概要
Mixer (ミキサー)	DAWのミキサーを操作する為のモードです。
Instrument (インストゥルメント)	DAW上のプラグイン、デバイスなどを操作する為のモードです。基本、音源の操作をしますが、場合によってはエフェクトも扱います。
Transport (トランスポート)	DAWの再生、停止からソングポジションたロケーターなどのトランスポート機能を扱うモードです。
Internal (インターナル)	汎用のMIDIコントローラーとして扱う際のモードです。DAW外のソフトウェア、あるいは他のモードで連動しない手動設定が必要な音源など、追加設定が必要な際に便利です。また、DAWインテグレーションに対応しないDAWソフトウェアのほとんどはこのモードを使用します。

Panoramaはモード切替え操作を行った場合、直前のモードのメニュー階層の位置を保持してボタン①を押したモードに切替ります。つまり再度、前のメニューに戻った場合、切替えた際の階層 (メニュー) が表示されます。同じモードボタン①を二度押した場合、そのモードのホーム画面に戻ります。

インフォバー (Info-Bar)

ディスプレイの上から2段目の赤色/灰色/赤色表示の箇所をインフォバー (Info-Bar) と呼びます。DAWと連動した場合、モードのホーム画面で以下の情報を表示します：

DAWのトラック名 / ミキサーチャンネル (の番号) / デバイス (プラグイン) 名



メニュー階層が変わるとこの箇所の表示はそれに依じて変化します：

Mixerモード：DAWのトラック名 / ミキサーチャンネル (の番号) / 現在のメニュー

Instrumentモード：現在のパッチ (音色) 名 / デバイス (プラグイン) 名 / 現在のメニュー

*表示内容はDAWソフトウェアやモードによって異なります。

トラック、パッチ、ミキサーバンクの操作



ナビゲーションボタン⑤は、主に連動したDAWのトラックやシーケンスに関する操作をします。概要は以下の通りです：

Track - / Track + ボタン：シーケンストラックの選択 (前または次) を行います。

Patch - / Patch + ボタン：シーケンストラック上のデバイス (プラグイン) のプリセット (音色) 選択 (前または次) を行います。

View ボタン：DAWのミキサー表示 (Mixerモード)、プラグインの画面 (またはラック) の表示 (Instrumentモード)、シーケンス表示 (Transportモード) をします。

<Bank / Bank> (Shift と Track - / Track +) ボタン：ミキサーモードのフェーダーグループ = バンク (8トラック = 1バンク) 選択 (前または次) を行います。例えば、Panoramaのフェーダー⑨がDAWのトラック1-8と連動している場合、ボタン操作でトラック9-16に切替えます。

<Zoom / Zoom> (Shift + Patch - / Patch +) ボタン：シーケンストラック表示のズーム (拡大また縮小) を行います。

DAWコントロール

Mixer(ミキサー)モード

Mixerモードでは左から8本のフェーダー⑨、その上のエンコーダー⑩、下のボタン⑦をDAWのミキサー操作に使用します。

エンコーダー⑩は通常チャンネルパンを扱いますが、Toggle/Viewボタン⑩操作で、PAN(パン)、Width(広がり)、SEND(センド)などを操作します。

LEDボタン⑦は、Toggle/Muteボタン⑧操作で、チャンネル選択、Mute(ミュート)、Solo(ソロ)、ARM(録音待機)などを操作にします。



二列に並んだもう片方のエンコーダーグループ⑫は、デフォルト設定で選択チャンネルのEQ操作に使用します。DAWのチャンネル/トラック選択は、チャンネル選択(Ch. SELECT)に設定されているLEDボタン⑦を使用します。この操作はPanoramaの鍵盤と独立していますので、例えば鍵盤でベースを演奏しながら、キックドラムトラックのEQを調節することが出来ます。

EQのパラメーターをディスプレイで確認する場合、画面表示のEQ下のディスプレイメニューボタン④を押します。画面右下端のMenuタブは、その下のボタン④を押すことで、マスターセクションを含むすべてのミキサーメニューにアクセスします。

重要なお知らせ: Panoramaの画面表示はDAWと連動する為、正しく表示・機能する為以下事項をお守りください:

- ・ トラック名は半角英数字のみをご使用ください。
- ・ DAWのミキサーチャンネル名とシーケンストラック名が個別に設定できる場合、必ず同じ名前してください。

Instrument(インストゥルメント)モード

Instrumentモードでは選択されているシーケンストラック上のデバイス(インストゥルメント)の操作をします。トラックを変更した場合、対象のデバイスも連動し、コントローラーの割当ても即座に更新されます。

通常、このモードでは二列に並んだエンコーダーグループ⑫を使用し、モードのホーム画面で表示します。この画面はハードウェアのキーボードワークステーションを彷彿させるスタイルで、デバイス(インストゥルメント)の音色と操作パラメーターを表示します。8つのエンコーダー⑫は連動したデバイス・インストゥルメントに適したパラメーターが割当てられています。そしてデバイスにエンベロープを使用している場合、8本のフェーダー⑨はアンプリチュード(AMP)とフィルター(FILTER)のADSRエンベロープの操作に割当てられます。



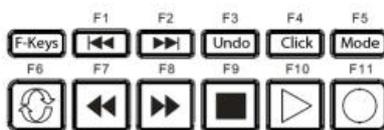
画面右下端のMenuタブ下のボタン④を押すことで、メニューから選択デバイス(インストゥルメント)の全パラメーターにアクセス出来ます。

メモ: Reasonではエフェクトや音源以外のカテゴリーの操作にも使用できます。その際はそのデバイス用にトラックを作成します。

ヒント: インストゥルメントのパラメーターは主にDAWのオートメーションパラメーターと連動します。NI KontaktやUVI Falconなど、プラグインによっては、ソフトウェア側で必要なパラメーターを事前にオートメーション設定する必要があります。

Transport(トランスポート)モード

Panoramaのトランスポートボタン⑥はモードに関わらず、常にDAWのシーケンスの再生、停止などの操作に使用出来ます。



Transportモードではトランスポートコントロールに関する追加機能にアクセスします。テンポ、クリックレベル、プリカウント、ソングポジションなどのアクセスと表示が可能です。そして再生ポジションのリアルタイム表示も行われ、コンピューター画面に視線を移すことなく確認することが出来ます。

Transportモードのホーム画面はInstrumentモードのそれと似た表示になります。大きなソングポジション表示、そしてループポジションの始点と終点、さらには、二列に並んだエンコーダーグループ⑩と連動したパラメーターが画面上に映し出されています。そしてディスプレイメニューボタン④と連動したメニューが用意されています。例えば、Clockメニューにアクセスした場合、ソングポジションのリアルタイムと小節(バービート)表示の切替えを行います。右端のボタンでその左横の4つのメニューを別のメニューに切替えます。



ループレコーディングを行う場合、操作手順は次の通りです：

- 右端のディスプレイボタン(▷)を押して、メニューを次のページに切替えます。
- メニューのLoop>または<Loopボタンのいずれかを押し、ソングポジションを移動します。
- ループポジションを変更する場合、始点にしたいソングポジションを移動し、Loop>ボタンを押します。
- 次に終点に設定する箇所にソングポジションを移動し、<Loopボタンを押します。

リモート設定の上書き

Transportモードでは、フェーダー⑨、その上のエンコーダー⑩、下のボタン⑦を使用しません。従って、これらのコントローラーは、Internalモードと同様、汎用のMIDIコントローラーとして機能します。ほとんどのDAWやソフトウェアにはMIDIラーンと呼ばれるコントローラーの学習機能が備わっています。その機能を活用して、これらのコントローラーを設定して操作可能です。概要は以下の通りです：

1. PanoramaをTransportモードに設定します。
2. ソフトウェアのパラメーターを右クリックし、MIDIラーン(MIDI Learn)を有効にします。
3. Panoramaのコントローラーを動かして、パラメーターと連動させ、設定を終了します。
4. 上記の手順2と3を繰り返し、必要なパラメーターの割当てを完了させます。

メモ：MIDI Learnに関する具体的な設定や詳細は、対象となるDAWやソフトウェアのマニュアルをご確認ください。MIDIラーン機能は、ソフトウェアによって呼び方が異なります。MIDIマッピング、リモートオーバーライトなどその呼称は統一されたものではありません。

注意：MixerモードとInstrumentモードでも同様の設定は可能ですが、DAWインテグレーションの関連付けが機能しなくなりますのでお勧めはいたしません。

DAWコントロール

モーターフェーダー

Panoramaのモーターフェーダー⑩は通常、選択されているトラック（ミキサーチャンネル）のボリューム操作を行います。トラックを切替えた場合、モーターフェーダーの連動はその選択に追従します。同様にその右横のボタン類⑪：Solo、Mute、Faderと2つのLED表示も連動します。これらのコントローラーは、Panoramaの3つのモード：Mixer、Instrument、Transportに関わらず、常に機能します。

Faderボタン⑪を押すことで、モーターフェーダーと連動しているミキサーチャンネルに関する情報がディスプレイに表示されます。この画面ではDataエンコーダー③とディスプレイメニューボタン④で、チャンネルパンやセンドレベルなどの操作も可能です。

また、メニューボタン④操作で、マスターやコントロールルームなどの操作も可能です。

注意：Reasonの場合、シーケンストラックとミキサーチャンネルを個別に扱える為、ミキサーと連動しないトラックを選択した場合、モーターフェーダーは機能しませんが、これは故障ではありません。

ドラムパッド

Panoramaのドラムパッド⑫は、前出の項目で既に解説しています通り、ドラムやパーカッション音源の演奏以外に、メロディ演奏の為の機能も備えられています。

DAWと連動した場合、これらのパッドをDAW標準装備のドラム音源の演奏に使用出来ます。例えば、Reasonの場合、Kong、ReDrum、Dr. Octo RexはPanoramaのパッドと連動し、演奏をすることが出来ます。また、追加機能としてステップシーケンサーの操作、ソロ、ミュートなどに使用することも可能です。その際のモード切替えはPadsボタン⑬を使用します。

ReWireコントロール

PanoramaはReWireマスターのDAWとReWireスレーブのソフトウェアを同時に扱うことが出来ます。その切替えは簡単なボタン操作で行えます。操作は以下の通りです：

両方ともDAWインテグレーションに対応している場合（CubaseやLogicとReasonの組合せ）、Shiftボタン⑭とToggle/Viewボタン⑮で切替えをします。この際、インフォバー表示で操作対象を確認出来ます。



赤色 = ReWireマスター

青色 = ReWireスレーブ

ReWireマスターがDAWインテグレーション非対応で、スレーブが対応している場合（Ableton LiveやProToolsとReasonの組合せ）、モードボタン①を使用します。InternalモードはReWireマスター、その他のモード：Mixer / Instrument / TransportはReWireスレーブで使用します。

ReWireマスターがDAWインテグレーション対応で、スレーブが非対応の場合（CubaseやLogicとAbleton Liveの組合せ）、モードボタン①を使用します。ReWireマスターはモード：Mixer / Instrument / Transportを使用し、ReWireスレーブはInternalモードを使用します。

メモ：ReWireスレーブモードのAbleton Liveは、コントロールサーフェス機能が無効になりますので、通常MIDIマッピングモードを使用してPanoramaのコントローラーを割当てます。

注意：いずれの組合せも、ReWireスレーブ側で、Panoramaの鍵盤からの情報遮断（オフ）にする必要があります。例えば、Reasonの場合、Keyboard Portの設定を未選択にします。

ファクトリーリセット

以下の操作でPanoramaを工場出荷時の状態に戻すことができます：

- 2つのパッチ (Patch - と Patch +) ボタン⑤を押しながら、Panoramaの電源を投入します。(Panorama P1の場合はCycleとRecordボタン⑥)
- これらのボタンを2秒以上押し続け、Panoramaのディスプレイがフェーダー画面表示になるまで押したままにします。

この操作は、DAWインテグレーションファイルや特定のsyx形式設定ファイルを転送した後に設定に迷い、最初から設定をし直す際に便利です。

アバウト (About) 画面

以下の操作でPanoramaのファームウェアとハードウェアバージョンを確認することができます：

- Internalモードボタン①と左側2つのディスプレイメニューボタン④を同時に押します。

画面表示を解除するには右端のディスプレイメニューボタン④を押します。

ファームウェア (Firmware) アップデート

Panoramaに関する必要ファイルのインストール後、場合によっては本体のファームウェアをアップデートする必要があります。正常動作しない場合、本体のファームウェアが最新であるかどうか、ご確認ください。ファームウェアの更新に関するファイルは通常、ダウンロードされたパッケージに含まれ、場合によってはシステムにインストールされていることがあります。例えば、Mac OS X 10.11 (El Capitan) に関するパッケージの場合、ダウンロードされたファイルに含まれ、すぐに見つけることができます。

ファームウェアの更新は、本体のシステム更新になりますので、行う際は細心の注意を払った上で作業をお願い致します。以下、その手順になります：

1. Panoramaの電源をオフにした状態で、コンピューターと接続し、Toggle/Viewボタン⑩とMixerモードボタン①を押しながら、電源を投入します。
*P1は電源スイッチがない為、「Toggle/View」と「Mixer」ボタンを押しながらコンピューターに接続します。
2. Panoramaのディスプレイが真っ白で何も表示されていない状態を確認したら、コンピューターにインストール済みの「Nektar update.app」(または「n-kupdate」) を起動します。
*いくつかのシステム環境においてファームウェアは以下の場所にインストールされます。
Windows環境: C:\Program Files\Nektar\Px\fw
Mac OS X 10.7 から 10.10.5環境: Macintosh HD (起動ディスク) > ライブラリ > Application Support > Nektar > fw
注意: これらのファームウェアが最新ではない可能性があります。最新のファームウェアに関する情報は弊社ウェブサイトをご確認頂くようお願い致します。
3. アップデートソフトウェアで、「Device Attached」が表示されているれば、Panoramaが認識されていることをあらわします。認識されていない場合は、すべてのソフトウェアを終了し、上記の手順1から再度接続を試みてください。
4. 接続を確認したら、アップデートソフトウェアの「Load」ボタンを押して、ファームウェアファイルを開きます。ファームウェアファイルは、Pnoramaのモデル毎に用意されています。P4の場合、「Panorama_P4_FW... .bin」を探し出します。
ご不明の場合は弊社ウェブサイトからダウンロードして、わかりやすい場所に展開をしてください。
Loadボタンを押せない場合は、すべてのソフトウェアを終了し、上記の手順1から再度接続を試みてください。
5. ファームウェアファイルが読み込まれると「Program」が有効になりますので、クリックしてファームウェアの更新を実行します。
6. しばらくして、ソフトウェア上のメッセージ欄に「Programming success」と表示されたら、アップデートソフトウェアを終了して、Panorama本体の電源を切ります。(P1の場合は接続を外します。)
7. Panoramaの電源を投入 (P1の場合は再接続) して、正常に起動をすれば、ファームウェアの更新は完了したことになります。

Panoramaの設定を工場出荷時に戻す場合は、Panoramaの電源を切った状態で上記のファクトリーリセットの手順に従います。工場出荷状態への初期化を完了したら、一度コンピューターを再起動します。

注意: この操作ですべてのユーザーメモリと設定が消去されます。ユーザーメモリと設定のバックアップをとり、工場出荷時に戻した後、必要あらばバックアップからこれらの設定を本体に戻します。

www.hookup.co.jp

HOOK UP, INC.

日本総輸入代理店株式会社フックアップ
Designed by Nektar Technology, Inc
Made in China

nektar